

2024年2月27日
国立大学法人東京大学
熊本県

東京大学・熊本県が地域連携協定を締結

——地域課題への対応と活力ある個性豊かな地域社会形成に貢献——

国立大学法人東京大学（本部：東京都文京区、総長：藤井輝夫、以下「東京大学」）と熊本県（知事：蒲島郁夫、以下「熊本県」）は、本日、地域連携協定を締結しました。この協定は半導体産業の振興、関連人材の育成と交流など、双方が培ってきた知見等をさらに融合させた取り組みを進めることで、熊本県の地域振興および地域課題の解決やさらなる発展に寄与していくものです。

■背景

平成21年に東京大学大学院工学系研究科総合研究機構と熊本県とは特別授業の実施や教員・学生の相互交流を目的とした覚書を締結しました。この覚書のもと、熊本県内の高校生が東京大学において講義を受講するとともに、東京大学の最先端の理工系研究施設を見学する「東京大学視察研究事業（高校生スタディツアー）」・「東京大学教員による出張講義」等を実施してきました。

また、平成29年には熊本県及び熊本大学と東京大学先端科学技術研究センターとが、熊本地震からの創造的復興に関して包括的連携協定を締結しました。令和3年からは、先端科学技術研究センターを拠点として採択されたJST（科学技術振興機構）の共創の場形成支援プロジェクト「ClimCORE」に熊本県が参画し、熊本県職員の派遣なども通じて、地域気象データを活用した防災・減災対策やまちづくりへの連携を進めてきました。併せて、熊本県立人吉高校五木分校の魅力向上への協力・支援も行っています。

平成30年には、「くまモンとふれあえる人工現実（VR）世界の開発」研究の具体的展開や加速化を図るため、熊本県の人気キャラクター「くまモン」が先端科学技術研究センターの「せんたん  研究員」に任命されました。「VRくまモン」のイベントや、高齢者の就職支援アプリ「GBER」の展開など、先端科学技術研究センターの知見を活用しながら、地域連携の取組を実施してきました。

令和5年には、東京大学大学院工学系研究科と熊本大学大学院先端科学研究部（工学系）とが、半導体人材育成のための連携協定を締結し、熊本大学内に東京大学大学院工学系研究科附属ナノシステム集積センターの分室を設置しています。

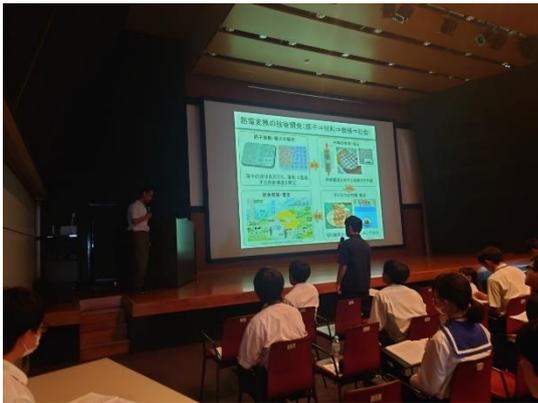
このように、熊本県とは既に東京大学の複数の部局が連携して地域課題の解決に取り組んできました。



「くまモン」を東大先端研の「せんたん  研究者」に任命



蒲島知事に気象再解析データを活用した訓練実施を報告 (R6.2月)



「東京大学視察研究事業（高校生スタディツアー）」の様子



■連携事業の概要

今回の協定締結により、具体的には以下のような取組を行っていきます。

- (1) 半導体産業の振興、関連人材の育成と交流
- (2) 先端知の社会実装による地域振興および防災・減災等地域課題の解決
- (3) 世界や地域で活躍できる中高生等の育成と教員の交流

【半導体産業の振興、関連人材の育成と交流】

熊本県では、台湾の世界的半導体メーカーTSMCの進出決定以降、半導体関連企業の立地が加速しており、半導体産業の集積強化や経済波及効果など、様々な分野で良い影響が及んでいます。一方で、半導体関連の人材育成や人材確保など対応すべき課題も見えてきました。

東京大学と熊本大学とは、令和5年に締結した半導体人材育成のための連携協定のもと、研究者・学生・サポートスタッフの交流、共同研究の実施、研究整備の相互利用に関することなどで連携していく予定であり、今回の地域連携協定締結を契機に、東京大学では熊本県における半導体分野での連携を更に強化していきたいと考えています。

【先端知の社会実装による地域振興および防災・減災等地域課題の解決】

東京大学先端科学技術研究センターでは、「ClimCORE」において観測データと数値モデルの融合により、日本域気象再解析データの作成や解析雨量データの改良とその活用に取り組んでいますが、熊本県とは、梅雨時期前の水害対応訓練にこのデータを活用することで合意しています。これまでは、県職員の経験に基づくシナリオにより訓練を実施していましたが、今回は解析雨量データを活用し、過去に近

隣で降ったりリアルな雨を再現するとともに、気象庁の「キキクル」と連動し、河川の氾濫危険度などを割り出すことで、科学的根拠に基づいた訓練を行う予定です（2024年2月9日記者発表※）。

この取組は全国でも初めてのものであり、熊本県を皮切りに、全国他地域にも展開することで、広域的な防災面での社会課題解決に寄与できると考えます。また、ClimCOREでは地域気象データを活用した太陽光・風力発電の効率化や暑熱対策の社会実装も進めており、TSMCの進出で加速する県の工業化に伴うエネルギー対策やカーボンゼロへの取組みにも寄与できると思われれます。

東京大学からは学術面において、半導体以外の分野でも専門的知見や気候データ分析に関するノウハウなどを提供し、熊本県からは社会実装のためのフィールドを提供いただくことで、地域課題へ対応していきます。

※ 参考：ClimCORE レポート「「キキクル×気象再解析データ」を活用した 新たな水害対応訓練について、熊本県知事への説明を行いました」

<https://climcore.rcast.u-tokyo.ac.jp/news/393/>

【世界や地域で活躍できる中高生等の育成と教員の交流】

熊本県内の高校生が東京大学で講義を受講、理工系研究施設見学を行う「東京大学視察研究事業（高校生スタディツアー）」を継続実施する他、熊本県立人吉高校五木分校では、総合的な探究の時間で東京大学先端科学技術研究センターと連携し、当センターの知見を活用した連携授業を実施していきます。探究活動・課題研究における共同研究や学習支援（五木分校の魅力向上に係る当センターの協力・支援等）も継続していきます。

また、東京大学では、平成29年より「フィールドスタディ型政策協働プログラム（FS）」を通じ、社会的課題に果敢にチャレンジするリーダー人材を育成しています。本プログラムは、趣旨に賛同いただいた地方自治体の協力を得て実施しており、地方自治体から投げかけられた課題に対し、東京大学の学部学生・大学院生が地域の現場を奔走しながら現状について身をもって体験・把握し、その課題解決に向け、自ら考え、または学内の知見を有する教職員間を奔走しながら協力を得て問題解決の糸口を探り出すものです。令和6年度の実施にあたっては、熊本県からも協力いただき、学生のフィールドスタディの受け入れを行っていただく予定です。

【本件に関する問い合わせ先】

国立大学法人東京大学 本部社会連携推進課

E-mail : shakairenkeika.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

熊本県 企画振興部企画課

E-mail : kikaku@pref.kumamoto.lg.jp

お手数ですが、本件についてのお問合せに際しては、メールの件名の頭に「【0227 東京大学／熊本県】」と記載いただきますよう、お願い申し上げます。